

# 令和7年度 自己評価表

鳥取県立米子養護学校

中長期目標 【学校ビジョン】	一人一人の能力を最大限に伸ばし、自立と社会参加に向けて、より豊かに生きる児童生徒を育成する。 ※ キーワード【つながる】	今年度の 重点目標	○学ぶ意欲と自己肯定感を高める教育活動の展開 ○安全で安心な学校づくり ○お互い認め合い、高め合う教職員集団の実現 ○表現力及び体力の向上,健康増進 ○家庭・地域との連携強化 ○業務改善の推進と組織の活性化
-------------------	-----------------------------------------------------------------	--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	評価項目	年 度 当 初			評 価 結 果 ( 9 ) 月			
		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
小学部	学ぶ意欲と自己肯定感を高める教育活動	○児童が学ぶ楽しさを感じながら、必要な力を身につけることができる授業づくり・改善の実践	○児童の実態を捉え、環境を整備したり繰り返し取り組む学習内容を設定したりして、児童が自信をもって行える場を増やしている。反面、限られた環境では自信を持ってできることも多いが、新しいことやチャレンジしようとする意欲が持てない児童もいる。チャレンジする過程で、自信を喪失して学習に向き合えない児童もいる。	○児童が学ぶことが楽しいと感じる授業づくりや改善を繰り返すことにより、必要な力を培い、「学校・学ぶことが好き」と答える児童や、そのような様子を実感することができたと答える教員が8割を超えている。	○前後期で児童に聞き取りやアンケートを行い、教員と対話しながら、学校生活や自分について見つめる機会を設ける。 ○学習を共に行う教員グループの話し合いの場を意図的に設け、児童の変容について実感を伴った話し合いができるようにする ○学ぶことが楽しいと感じられるような場の工夫や人とつながる授業実践ができるよう、他学校の情報を得たり教員間の実践を見合う機会を設けたりする(教員の授業力向上を図る)。			
中学部		○楽しい・わかる・魅力ある活動・授業づくり	○学習や活動に真面目に取り組む生徒が多く、自分の考えや思いを表出できるようになりつつあるが、受け身であったり声かけや指示を待てたりする場面も見られる。 ○授業や活動の中で、生徒が考える時間を十分に確保できていなかったり、過支援になっていたりとすることがある。 ○関わりの少ない人に対して、適切な反応ができない場面が見られる。	○授業や活動が「楽しい」「わかった」と感じている生徒や、生徒がわかったと実感できる授業や活動を実践したと答える教員が8割を超えている。	○発問・教材の工夫や体験的な学習活動、ICT機器の活用等、わかる授業づくりに取り組むとともに、その土台となる実態把握や障がい特性の理解、教員間の共通理解に努める。 ○自分の学びについて、また指導・支援について振り返られるよう、学期ごとに生徒アンケート、教員アンケートをとる。 ○地域学校協働活動や交流等、様々な人と関わる機会を設定する。			
高等部		○生徒が安心して、自信を持って取り組める授業づくりと授業改善	○様々な実態の生徒が多く在籍している。何事にも真面目に取り組もうとする生徒が多い。一方、自信のなさ、経験の少なさ等から、不安感の高い生徒や自分から進んで物事に取り組むことが難しい生徒もいる。	○「やってみよう」「またやってみよう」と生徒が思える活動の工夫や場の設定、関わり方等ができたことと答えた教員が8割を超えている。(生徒のアンケート、教員のアンケートどちらも達成率が8割を超えている)	○様々な場面で目標や役割を持たせ、その都度丁寧に振り返りを行ったり、即時評価をしたりする。 ○適切な目標設定と具体的な評価基準を意識した授業実践を行う。 ○主体的に活躍できる体験の場を増やす。 ○同学部の生徒とだけでなく、他学部の児童生徒や校内外の様々な人と関わる場面を設定する。			
全体	安全で安心な学校づくり	○公務災害の未然防止	○昨年度に時間外勤務が微増した。また公務災害が同様に件数が11件発生している。これらのことから、職員の職場環境に何らかの課題があると考えられる。今年度は時間外勤務の減少のために校務分掌の見直しやライトダウンの拡大に取り組んでいる。	○公務災害5割減	○時間外勤務と公務災害の件数との因果関係を分析し、職場環境について衛生委員会で協議する。 ○保健安全部と連携して「ヒヤリハット」から教職員の安全確保の状況を把握し、必要などときには注意喚起を促す。			

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]

様式 2

	年 度 当 初					評 価 結 果 ( 9 ) 月		
	評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
教務部	年間指導計画の計画と改善	○年間指導計画および教育課程についての理解促進と共有	○年間指導計画や教育課程についての理解度に差がある。しかし、適切な時期に研修等で理解を深める機会が少なく、実施したものは概要が中心である。今後、説明や研修の場の設定が必要がある。	○年間指導計画作成者アンケートで「研修を通して理解が深まり、根拠をもって作成できた。」の回答が65%を超えている。 ○各学部において、教育課程および年間指導計画の見直しの会が2回以上設定されている。	○教職員の理解度を深めるために、年間指導計画や教育課程の目的や関連性について、全体または学部で、オリエンテーションやミニ研修を実施する。 ○定期的な検討・見直しの時期を設定し、スケジュール提示および呼びかけを行う。			
研究部	専門性及び授業力の向上	○校内研究の推進	○3ヶ年の校内研究の最終年である。昨年度は学部研究、授業研究会、実践報告会等を通して、教科の見方・考え方を働かせる実践を進めることができた。 ○研究を通して、授業改善を各グループで進めたが、学習したことを日常生活場面に生かしていくことがイメージしづらかったり、難しさを感じたりしている教員が多い。	○教員アンケートで「児童生徒が、授業で学んだことを日常生活や他の学習場面で生かしている」と答える割合が、年度末に増えている。	○計画的に学部研究、夏季全体研修、授業研究会等を計画、実施する。 ○研究を進めるに当たり、児童生徒が学習したことを日常生活や他の場面に生かしている姿を明確にし、教員間で共有した上で、授業づくりに取り組めるようにする。 ○アドバイザー派遣事業等を活用して外部講師を招聘し、授業づくりや校内研究の助言をいただく。 ○研究テーマに沿った授業づくりの参考になる資料等を随時紹介していく。 ○授業づくりと児童生徒の姿についてのアンケートを5月と1月にとり、授業や児童生徒の変容を捉えるようにする。			
保健安全部	健康教育の充実	○健康課題（肥満・歯周病など）に対する指導・支援の充実  ○防災・防犯に関する危機管理意識の向上	○健康課題解決に向けて、保護者と連携しながら、組織的、継続的な取り組みが必要である。  ○危機管理意識は高まっているが、適切な判断や行動に向けて防災体制の整備や充実を図る必要がある。	○アンケートで「児童生徒の健康課題についての意識が高まった」と保護者、教員の7割が回答している。  ○教職員の防災に対する危機管理および行動意識が高まっている。	○各教科領域、分掌、保護者と連携した取り組み ・生活習慣アンケートの実施と結果の周知、研修会の実施 ・各種たよりやホームページの活用と啓発 ○外部専門家との連携による、計画的な研修会や訓練等の実施 ○防災マニュアルの見直し			
生徒指導部	組織的対応・継続的な	○生徒指導上の問題への迅速かつ適切で組織的、継続的な対応	○事象発生後の報告等に時間を要することがあった。 ○生徒指導不登校対策委員会の進め方や組織的な対応について検討・改善が必要。	○生徒指導上の問題が発生した際、「迅速な情報共有、組織的、継続的な対応ができた」と年度末の教員アンケートで7割の教職員が回答している。	○生徒指導不登校対策委員会の進め方を検討し、改善を図る。 ○生徒指導事案対応フローチャートの周知と見直しをする。 ○教職員間が適切で組織的、継続的指導ができるように、インシデントの活用を促す。 ○事案解決後に該当の教職員にアンケートを実施する。			
インクルーシブ教育推進部	地域交流の推進	○地域進出・地域交流の内容の充実	○各学部毎の交流や公演、発表等の機会は学習活動で設定され、取り組んでいる。児童生徒の様子や本校の取り組みについて、外部への発信、啓発を徐々に進めている。	○本校の取り組みや児童生徒の様子について理解が深まったか、交流や発表、行事で保護者や地域の方等を対象にアンケートを取り、「様子が分かった」「理解が深まった」等、前向きな回答が7割を超える。	○啓発や理解度について把握できるような項目をアンケートに取り入れる。 ○交流や発表等、関わりの機会を増やす。 ○活動のねらいや外部のニーズを把握しながら、担当者間で内容を検討していく。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し  
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]

様式 2

	年 度 当 初				評 価 結 果 ( 9 ) 月			
	評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
教育支援部	センター的機能の充実 教育支援の充実に資する	○校内資源を活用したニーズに応じた校外支援	○地域の園や学校から特別支援教育に関して学び合う研修会等が少ないという意見が多い。 ○教育相談における助言内容が施設全体に広がりにくい状況がある。	○研修参加者の8割が「研修内容が今後の指導支援に役立った」と回答している。	○自立活動に関する演習も取り入れた地域対象の研修会を7月に実施する。 ○就学に関する地域対象の研修を12月から2月にかけてYouTubeで限定配信する。 ○研修参加者にアンケートを取る。			
		○活用しやすい校内支援体制	○校内支援の相談の中で自立活動に関する内容が増えており、教科領域の自立活動との連携が必要である。 ○支援方法とともに学習を通して身につけていく力についても提案していく必要がある。	○子どもの行動に対する支援方法とともに、学習でつきたい力を提案し、8割以上の教員が「参考になった」と回答している。	○校内の専門性の高い教員や自立活動担当と連携を図る。 ○部内で事例を共有し、指導支援や学習の方向性を検討する機会を設ける。 ○教員のニーズに合った校内支援の取り組み事例を継続的にサイトに載せていく。			
進路指導部	家庭・地域との連携	○児童生徒、保護者のニーズにあった進路情報の提供	○保護者研修(卒業生出前講座、PTA主催の事業所見学等)や、懇談期間中の進路指導室開放には、高等部だけでなく、小中学部保護者の参加も見られ、小中学部段階から進路への関心を持ち、情報収集をしておられる家庭が多くある。 ○昨年度末の保護者評価では、「児童・生徒や保護者が必要とする進路情報が提供されているか」との質問に対して「よい」と回答した保護者が全体の57%だった。	○60%以上の保護者が、「児童・生徒や保護者が必要とする進路情報が提供されている」と感じている。(年度末の保護者評価で「よい」との回答が60%以上)	○しんろだよりでの発信を工夫する。(返信欄を設けてニーズをくみ取る。子どもの将来の姿をイメージをすることができる内容を発信する。) ○個人懇談期間等に進路・支援センター室等を開放し、自由に相談できる機会を設ける。 ○各学部の保護者向け進路懇談会や、教職員研修の開催形態、内容等を工夫する。			
ギガスクール推進部	的な情報共有の工夫と効果の推進	○ICT機器等の有効活用の推進	○ICTを有効に活用するための環境(機器の管理・情報共有・業務改善のためのシステム)の面で整備が必要な部分がある。 ○職員間で円滑に情報を共有し、業務を効率化する仕組みをさらに整える必要がある。 ○児童・生徒に対し、ICTを安全に使うためのリテラシー教育をさらに進めていくことが必要である。	○教育活動、校務においてICT機器を有効活用することができ、児童・生徒がICT機器を安全に使うための知識や理解が深まるような情報発信がなされている。(年度末の教員アンケートで肯定的な評価が8割を超えている。)	○ICT機器を活用する上で、快適な環境の整備(機器の管理体制・安全な情報管理・業務改善システム、情報処理室等の整備)を行う。 ○授業や校務におけるICTの有効活用たり、安全に取り扱ったりするために必要な情報発信や研修の企画等の取り組みを行う。 ○教職員からのICT活用に関する相談対応において、迅速丁寧な対応を行う。			
事務部	業務改善の推進	○効果的な予算の執行	○予算の執行時期について、安心安全な教育環境の整備及び特色ある教育活動の支援のためにも予算の目的とするところを確実に実現する必要がある。	○予算の効率化・重点化を推進し、健康や安全に配慮した教育環境の整備を図る。 ○児童生徒にとってよりよい環境づくり、児童生徒を中心とした教育環境の充実を図る。	○業務改善を図るとともに、職員組織への現状説明により計画的な予算執行に努める。 ○予算執行については、必要性を精査し、早期に事業効果が発揮されるよう計画的な執行に努める。 ○現状を把握・分析して、課題を整理し、優先順位をつけて業務に取り組む。			

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し  
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]